

# 伝統芸能から人間ドラマを楽しむ 特別短期講座

テーマ：第9回『魚屋宗次郎』(歌舞伎)～悲しみと怒り

日時：2024年1月10日 9:20～16:20

講師：北見 真智子 先生 (大阪音楽大学講師・音楽学)



## 歌舞伎の役柄

江戸時代は役者個々に単一の役柄が割り当てられて分業化し、一般社会の身分制度と同様厳格に守られていた

立役(たちやく):善人の男性

敵役(かたきやく):悪人の男性

女方:若い女性役

数限りない役がわずかなこの役柄に分類されるのですが、むしろ役柄という定型の上になり立っているという点こそ歌舞伎の特徴です

立役	敵役	女方
実事:大人の男性	実悪:善玉の主役と 互角	赤姫:武家のお姫 様、華やかな衣装
荒事:荒々しい正義の 味方	色悪:二枚目の女を だます悪党	町娘:商家の娘、麻 の葉段鹿子
和事:色男、女性的な動 き、白塗り着流し	赤っ面:赤い顔は悪 人	田舎娘:都会の若衆 に恋する田舎の純 朴な娘



公家悪(高い身分の悪人)・道化方(笑わせ役)

傾城(廓に身を置く遊女)・悪婆(悪事を働く女性の役柄)

女房(武士・商家・町人の女房)

## 歌舞伎の演目の種類

- 時代物 武家や公家の社会に起きた出来事や、江戸時代よりも古い時代の出来事を描く作品
- 世話物 町人にとって身近で親しみを感じられる現代劇。世相風俗を背景とした出来事を題材とした演目
- 舞踊 当初は女性の役柄の踊りであったが、男性の役柄でも踊りが演じられ、一人でいくつもの役柄を踊り分ける「変化物舞踊」が流行
- 新歌舞伎 歌舞伎とは直接関わりのなかった作家によって書かれた演目



## 歌舞伎『魚屋宗五郎』

本題名:新皿屋敷月雨暈

通称:魚屋宗五郎

作者:河竹黙阿弥

世話物:3幕

初演:1883年3月 東京市村座

## 歌舞伎『魚屋宗五郎』あらすじ

魚屋宗五郎の妹のお蔭が旗本の屋敷に妾奉公に上がったのだが、お家横領をたくらむ悪事を知ってしまったため不義の罪を着せられて殿の手で惨殺され、井戸に沈められるというのが前半。

しかしこの作の中心となるのは後半の「魚屋内」から「磯部屋敷」で、酒を断っている宗五郎が吞まずにはいられなくなって酒に口をつけ、次第に酔いが回り、ついには手の付けられない酒乱になるという、その酔いっぷりが何よりも見どころ。思いきり酔っぱらって屋敷へやってきた宗五郎の後を女房のおはまが懸命

に追ってきました。あまりの無礼さに斬られてしまうところでしたが家老の浦戸十左衛門に救われ、宗五郎は「吞んで言うのじゃござりませんが」と悔しい思いを切々と訴えたあげくに、眠りこんでしまいます。目が覚めたところは屋敷の庭先、正気に戻った宗五郎は何があったのか見当が付きません。そこへ磯部主計之助が現れ、短慮からお蔭を殺めたことを深く詫び、弔意の金も与えます。そして典蔵の悪事も暴かれ、その場を逃れた典蔵もやがては捕らわれることとなります。

黒御簾(下座)音楽

舞台下手の黒御簾の中で演奏される音楽の事—演奏は唄と三味線と鳴物

